

建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量の表示ガイドラインの活用事例

- 林野庁では、2021年10月、建築物の所有者や建設事業者が木材の炭素貯蔵効果を「見える化」して対外的にPRできるよう、炭素貯蔵量の計算方法や表示方法を示したガイドライン(以下、「ガイドライン」)を策定。
- 民間事業者や行政においてガイドラインの活用が広がっている。

MOCXION INAGI(モクシオン稲城)



▲モクシオン稲城の外観

〈炭素貯蔵量〉約740t-CO₂

- 三井ホーム株式会社が東京都稲城市に建設した、木造(一部RC造)5階建ての賃貸マンション。
- 信州カラマツによる2×10材を床根太として採用しているほか、三井不動産グループの保有林におけるトドマツ間伐材などを活用。
- 同社ウェブサイトでは、炭素貯蔵量の計算結果など、建築物を木造とすることによる環境負荷の低減の効果を発信。

流山市立おおぐろの森中学校



〈炭素貯蔵量〉約2,853t-CO₂

- 千葉県流山市に建設された、木造(一部RC造・S造)3階建ての中学校。
- 千葉県産スギと長野県信濃町産カラマツを使い、構造材を含めた大部分で地域材の使用を実現。
- 木材使用量と炭素貯蔵量の計算結果は、木製のサインで校内に掲示され、生徒に木材利用による地球温暖化防止への貢献を学ぶ機会を提供。

▲校内に掲示された炭素貯蔵量のサイン

中学校の外観 ▶

林野庁 中部森林管理局における庁舎

施設名	国産材 使用量(m ³)	国産材の 炭素貯蔵量 (t-CO ₂)	木材全体 利用量(m ³)	木材全体の 炭素貯蔵量 (t-CO ₂)
富山森林管理署庁舎	141	88	141	88
北信森林管理署庁舎	110	81	110	81
岐阜森林管理署庁舎	93	64	93	64
南木曾支署庁舎	105	76	106	78
森林技術・支援センター庁舎	116	73	116	73
合計	565	382	566	384

〈炭素貯蔵量〉約384t-CO₂

※炭素貯蔵量を公表した5庁舎(左表)の炭素貯蔵量の合計



▲森林技術・支援センター庁舎の外観(左)と内観(右)

- 林野庁中部森林管理局は、2007年以降に建築した森林管理署等の5庁舎の炭素貯蔵量を算定し、2022年9月に公表。

とっとりカーボンプレージ認証制度



▲認定書(県特産の因州和紙製)

〈炭素貯蔵量〉約87t-CO₂

※これまで認証された県産材の二酸化炭素固定量の合計(2022年9月15日時点)

- 鳥取県は、非住宅建築物への県産材の利用促進と、県産材利用が地球温暖化防止に貢献していることの普及・啓発を目的として、ガイドラインを活用し、非住宅建築物への県産材利用による二酸化炭素固定量(炭素貯蔵量)を評価・認証する制度を実施。
- 認定された建築主には、県産材を利用した施設のPRや、建築主のCSR(企業の社会的責任)・SDGs(持続可能な開発目標)活動の証となる認定書を送付。

中大規模木造建築の事例を提供するウェブサイト「中大規模木造建築データベース」(公益財団法人日本住宅・木材技術センター)において、建築物の炭素貯蔵量を公開。